

講義名	地誌学		
科目区分	教養科目		
担当教員	藤原 喜美子		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

テーマ：地誌から見た日本の地域性  
この講義の目的は、日本の各地域にねがず地域性を読み取り、理解していくことにある。地誌は各地域の自然、社会、文化などの特性を記述したものである。そこで、近世の頃に記された地誌（紀行文）を題材に取り上げ、現在の様子と比較しながら、各地域の生活文化の特質を考察する。

**到達目標**

講義の内容を理解した上で、地誌（紀行文）に記された当時の日常生活の特色(地域性)に気づき、自らの言葉で説明できるようになる。

**提出課題**

1. 毎回の講義では、授業の最後に感想文の提出課題を課す。
2. 指定したテーマについて、中間レポートの提出を求める。題目は別途指示する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

毎回の授業の最後に書いてもらう感想文や中間レポートの内容は、提出後に次の回の授業などで、日本の地誌の事例として紹介する。

**評価の基準**

評価は、平常点（15点）、中間レポート（30点）、定期試験（55点）を総合して行う。

**履修にあたっての注意・助言他**

1. 原則として、出席調査を実施する。
2. この講義では、プリント資料として、主に近世(江戸時代)に記された地誌(紀行文)を使用する。現代の文章とは、かなり異なる表現や記述が多くみられるので、辞書を使用して言葉の意味を調べるなど、予習や復習を各自でしっかりと行うこと。
3. 講義中に私語をし、他人の学習の妨害をしないこと。教室内での私語など、受講態度が好ましくない者には退室を求めることがある。

**教科書**

.使用しない。

**プリント資料及び参考文献**

プリント資料...各時間、配布する。  
参考文献...講義中に適宜紹介する。

**授業計画**

1. 地誌学とは  
地誌をどのようにとらえるか
2. 菅江真澄遊覧記から見た地誌  
青森の生活
3. 菅江真澄遊覧記から見た地誌  
秋田の生活
4. 東遊雑記から見た地誌  
山形の生活
5. 東遊雑記から見た地誌  
岩手の生活
6. 東遊雑記から見た地誌  
宮城の生活
7. 利根川図志から見た地誌  
利根川の利用
8. 利根川図志から見た地誌  
利根川漁いの神社
9. 利根川図志から見た地誌  
江戸の生活
10. 秋山記行から見た地誌  
長野の生活
11. 和州巡覧記から見た地誌  
奈良の寺社
12. 都名所図会から見た地誌  
京都の生活
13. 都名所図会から見た地誌  
京都の寺社
14. 播州名所巡覧図絵から見た地誌  
兵庫の生活
15. 江藩西遊日記から見た地誌  
三重の生活

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

**準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

予習：次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、キーワードなどを書きとどめておく。各回の講義の最後でも、翌週の講義の内容を紹介する。また、そのテーマについて、翌週までに興味のある事項を1つ調べる（約1時間）。  
復習：講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約1時間）。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

この講義は、板書・プリントを用いた講義の形式で進める。

**実務経験の有無及び活用**

実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

**備考**

講義に使う資料は、江戸時代を生きた人々が残した記録である。江戸時代に見聞した事や考えた事など、当時の生活の様子が記録として残り、その当時の生活を知る貴重な資料として現在に伝えられている。現在との類似点もあれば、相違点もある。そこで、テーマごとに、現在の生活と比較しながら資料を読んでもらいたい。一方、日頃から自分の周囲の景色をながめ、どのような特色があるかを探す意識を持つきっかけにしたいと思う。